



# みらい

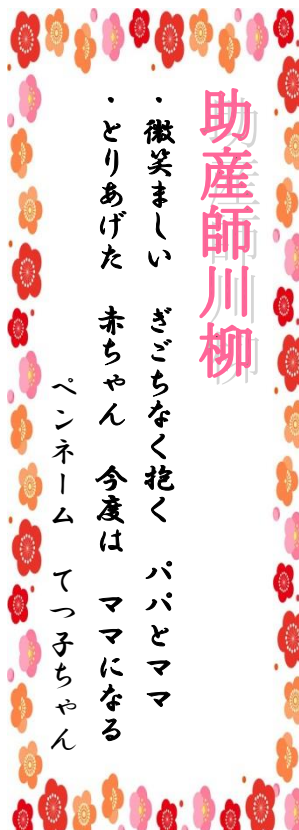
編集・発行 神奈川県助産師会 広報委員会 横浜市中区富士見町3-1 総合医療会館6階  
Tel 045(262)4201 Fax 045(348)9020 (受付時間 月～金 9:00～17:00)  
ホームページ <http://kanagawa-josanshi.com/> メール [office@kanagawa-josanshi.com](mailto:office@kanagawa-josanshi.com)

## かがやく助産師 PART2

横浜地区 朝場真弓

1人ひとりのお産を大事に、こころで寄り添いたい・・・そう感じて、長年勤めた大学病院を飛び出して15年が経ちました。助産院でのお産、自宅分娩の助産師さんとお産、出張での母乳ケア・・・出逢いの中から「病院」という場所を離れて感じた、産む前と産んだ後のからだところのケアの必要性・・・産む場所は違っても、どの人にも妊娠、出産、育児への深い想いがあって、それをちゃんと聴いて受け止めることが、母になることに、子供を育てていくことに、大きく関わっていくことを感じています。

妊娠を軸とした期間にどれだけ大事にされ受け止められてきたかが、色々なことに影響を与え、人生を豊かにも貧しくもしてしまう・・・その場面で大きく関わる助産師という仕事。寄り添うことで陽だまりのように暖かくてほっと出来るような産婆さんになりたいと思いながら、これからもひとつひとつの出逢いを大切にしていこうと思います。



助産師川柳募集します！  
採用された会員の方には  
研修チケットを差し上げま  
す！(事務局まで)



### 賀詞交歓会を開催しました！

平成28年1月15日メルパルク横浜において恒例の賀詞交歓会を開催しました。会長仲かよの挨拶に始まり、神奈川県立保健福祉大学学長中村丁次様の「胎児期からの栄養環境の重要性」と題した講演がありました。母親の食生活が胎児期だけでなく、成人期の生活習慣病にも大きく影響するなどの興味深い内容で大好評でした。御来賓の皆様からご挨拶を頂戴した後、「おめでとう」の唱和で交流が始まりました。新年らしく華やかな和服姿もあり、助産師会らしい明るく  
なごやかな会となりました。(佐々木・青島)



### 定時総会のお知らせ

平成28年6月13日(月) 13:00～  
神奈川県総合医療会館 6階 看護協会研修室  
多くの皆様のご出席、お願いいたします。やむを得なく 欠席される方は委任状の提出を必ずお願いいたします。

### 事務局より

平成28年度の会費(27,000円)の引き落としが2月23日にあります。前日までに口座へ入金をお願いいたします。  
お問い合わせは事務局まで。  
(045)262-4201

### 会員募集

随時、入会を受け付けています。詳しくはHP、事務局まで。

### 編集後記

立春を迎え、いよいよ木々の蕾も膨らんでくる頃です。広報委員会では、勤務の合間(夜勤の前後など)や、子連れでの出席などで活動しております。近々、助産師会のホームページもリニューアルする予定です。皆さまご活用ください!! (のんちゃん)

## 南北関東地区研修会 in かながわ のお知らせ

平成28年度の日本助産師会南北関東地区研修会は、神奈川県助産師会が担当となります。来たる9月23日(金)・24日(土)に、下記のように横浜で開催いたします。研修会テーマを「助産師ブランドの創生と確立 かながわからの発信」とし、地域に根差した助産活動をどのように助産師ブランドとして確立させ、発展させていくべきかについて、参加者の皆様とともに考えてみたいと思います。

また、当日はわれわれ助産師の応援に、神奈川県出身の元内閣総理大臣 小泉純一郎氏が駆けつけてくださいます。活気あふれるお話を直接聞いて、みんなで元気をもらいましょう。皆様お誘いあわせの上、ご参加くださいますようお願いいたします

テーマ：助産師ブランドの創生と確立 かながわからの発信  
場所：ローズホテル横浜

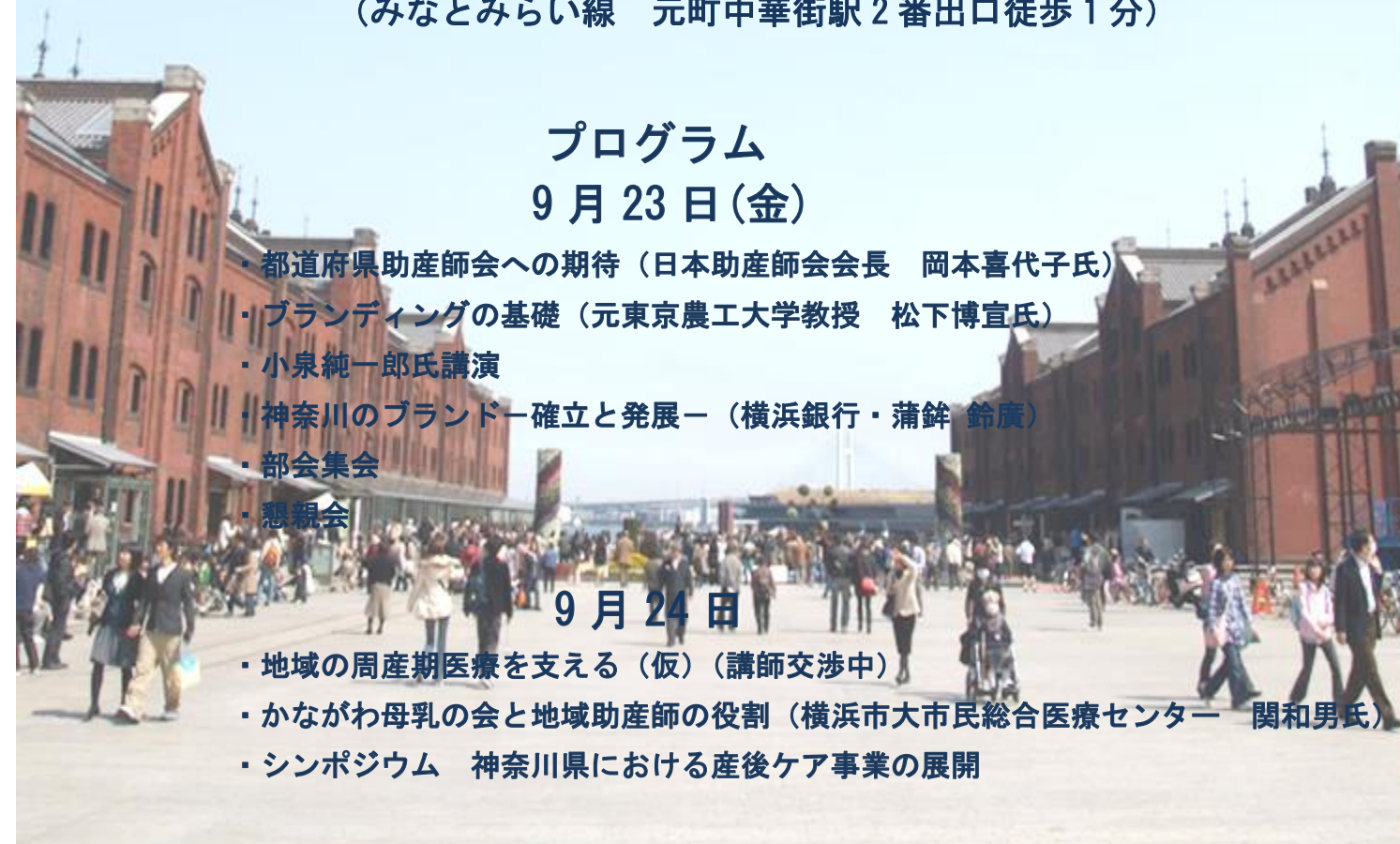
(みなとみらい線 元町中華街駅2番出口徒歩1分)

### プログラム 9月23日(金)

- ・都道府県助産師会への期待(日本助産師会会長 岡本喜代子氏)
- ・ブランディングの基礎(元東京農工大学教授 松下博宣氏)
- ・小泉純一郎氏講演
- ・神奈川のブランド確立と発展(横浜銀行・蒲鉾 鈴廣)
- ・部会集会
- ・懇親会

### 9月24日

- ・地域の周産期医療を支える(仮)(講師交渉中)
- ・かながわ母乳の会と地域助産師の役割(横浜市大市民総合医療センター 関和男氏)
- ・シンポジウム 神奈川県における産後ケア事業の展開



# 災害時の母子支援

東日本大震災より5年が経とうとしています。その後も水害などによる被害が相次いでおり、災害対策の意識が常に必要とされています。今回、実際に災害における母子支援に携わった方、災害対策に関わっている方にお話を聞きました。

## 災害時の母子支援 ～乳幼児の命を守る母乳育児～

公立大学法人横浜市立大学附属病院 助産師 IBCLC 吉田とも子



私は宮城県で東日本大震災に遭遇しました。その避難所生活を送る中で、乳児を持つお母さん達へ、母乳育児相談や授乳ができる環境の整備を直ちに行いました。災害時に母乳育児を続けることには大きな2つの利点があります。①母乳は児の栄養を満たす安全で衛生的な栄養源である事、②母乳に含まれる免疫によって児を下痢や呼吸器感染症から守る事です。災害による生命の危機や家族の安否などのストレスや不安は、オキシトシンの放出を妨げ、射乳反射を低下させる場合があります。しかし、母乳の産生に直接影響を与える訳ではありません。エモーショナルサポートは母乳育児支援の基本ですが、災害時という不安の大きい状況であれば尚さら、母親と信頼関係を築き、母親に寄り添った支援を行うことが大切だと感じました。震災での母乳育児支援を振り返ると、もしも、あの状況で人工乳が必要な児がいたとしたら、人工乳のない期間をどう支援するか、人工乳が届いた後も安全な調乳のためにどんな支援が必要かを考えさせられました。また災害時は、どんな状況下で、どんな支援が必要になるか予測が付きません。災害の間では日頃行っていること以上の支援はできないと実感しました。だからこそ私達が普段から行っている母乳育児支援を充実させる事が大切であり、母乳育児をするお母さんが増える事が、災害時の乳幼児を守ることに繋がると痛感しました。

## 災害対策委員会から

災害対策委員 北川悦子



皆様、お正月はいかがお過ごしでしたか？私は「人生の約束」という映画で涙しました。一緒に起業し退職した親友と再会したのは親友の葬式、親友の夢だった「曳山まつり」の実現に奔走しつつ、仕事ばかりで心を見失った社長が、家族や地域との「つながり」の大切さを見つける物語でした。

今、災害対策委員会は県と協定書を結ぶための準備や会立とわ助産院の災害時の活動拠点化をめざし備蓄品（発電機・水・ストーブ・トイレ・毛布など）整備を進めています。2月には東京都助産師会とのコラボで避難所運営ゲーム（HUG）の講演会を開催します。「避難所に妊婦とお子さんが来た」「ペットを連れて来た」「熱のある方が来た」など次々と判断力が鍛えられるゲームです。

防災対策として、日頃から顔が見える活動の大切さが言われています。その点では会員の皆様お一人お一人の地域でのご活躍が支えです。神奈川県助産師会が災害時の母子の味方として「つながり」を実感してもらえる活動をこれからも展開していきます。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

## 書籍紹介 『被災ママ812人が作った子連れ防災手帖』

著者：つながる.com 出版：メディアファクトリー 発刊：2012年3月2日

神奈川県川崎市にあるNPO法人ママ・プラグが、東日本大震災被災女性支援をきっかけに被災女性を取材し、1冊の本にまとめたのが「被災ママ812人が作った子連れ防災手帖」。本書籍は、被災したママ達が体験した震災の現実、そのときどうやってわが子を守ったか、子どもを守るために本当に必要なこと、対策をまとめています。そこには想像を絶する現実が描かれていますが、子どもを持つすべての人・その親子を支える人に読んでほしい1冊となっています。続編に『被災ママ812人が作った子連れ防災実践ノート』も出版され、具体的な実践方法を書き込むことができます。合わせて購入したい2冊です。（岩田）



## 「いのちのはなし」事業

いのちのはなし事業担当 中島清美

当事業部は派遣講師としての実施メンバーと指導案や実施ガイドを検討作成する会議メンバーとで構成されています。9月の講師養成講座では、実施メンバーにより実際の内容を講義いただき、いのちのはなしを助産師が伝えることの意味を学び、あなたは大切なひと、生きる力を持っていること等、自己肯定感を育てる種まきとして繰り返し伝えることの大切さを認識しました。

また、11月は地域向けに家族と聞く「いのちのはなし」を企画しました。幼児から低学年対象の講座で12組の親子がご参加いただきました。「お話を聞いて命の大切さを知りました。知らなかったこともわかったのでよかったです」（10歳女子）など前向きな感想をいただきました。好評につきステップアップ講座として平成28年2月21日に「思春期に向けて」の内容を企画しています。また講師の育成にも力を入れ、より多くの子どもたちに伝えていけるよう事業の拡大と発展を目指しています。

